

食品安全委員会の3月の運営について

1. 食品安全委員会の開催

第276回 3月5日（木）

(1) 食品健康影響評価の要請

- 以下の案件についてリスク管理機関から説明

動物用医薬品 (1品目)	モネパンテル
-----------------	--------

(2) 各専門調査会における審議状況についての報告

- 各専門調査会から報告された以下の案件について国民からの意見・情報の募集に着手することを決定

農薬専門調査会 (2品目)	シフルフェナミド、プロスルホカルブ
------------------	-------------------

(3) 食品健康影響評価

- 以下の案件について検討し、食品健康影響評価の結果をリスク管理機関に通知

農薬（1品目）	メタラキシル及びメフェノキサム
動物用医薬品 (1品目)	オキシベンダゾール
遺伝子組換え食品 等（1品目）	除草剤グリホサート及びアセト乳酸合成酵素阻害剤耐性 ダイズDP-356043-5（飼料）

(4) 食品安全委員会の2月の運営について事務局から報告

(5) その他

- 「愛知県のうずら飼養農家における鳥インフルエンザの発生に関する食品安全委員会委員長談話」を発表したことについて、委員長から報告

第277回 3月12日（木）

(1) 食品健康影響評価の要請

- 以下の案件についてリスク管理機関から説明

動物用医薬品 (5品目)	セファゾリン、ダノフロキサシン、ナナフロシン ピランテル、プリフィニウム
動物用医薬品及び 飼料添加物 (1品目)	ビゴザマイシン

(2) 各専門調査会における審議状況についての報告

- 各専門調査会から報告された以下の案件について国民からの意見・情報の募集に着手することを決定

農薬専門調査会 (2品目)	イプロベンホス、ピメトロジン
新開発食品 専門調査会 (1品目)	体細胞クローン技術を用いて産出された牛及び豚並びにそれらの後代に由来する食品

- 「体細胞クローン技術を用いて産出された牛及び豚並びにそれらの後代に由来する食品」に関しては、意見交換会の開催について報告

(3) 食品健康影響評価

- 以下の案件について検討し、食品健康影響評価の結果をリスク管理機関に通知

農薬 (1品目)	シメコナゾール
----------	---------

第 278 回 3月19日 (木)

(1) 食品健康影響評価の要請

- 以下の案件についてリスク管理機関から説明

添加物 (3品目)	2-エチル5-メチルピラジン、5,6,7,8-テトラヒドロキノキサリン、3-メチル2-ブタノール
-----------	--

(2) 各専門調査会における審議状況についての報告

- 各専門調査会から報告された以下の案件について国民からの意見・情報の募集に着手することを決定

農薬専門調査会 (2品目)	イソチアニル、スピロテトラマト
------------------	-----------------

(3) 食品健康影響評価

- 以下の案件について検討し、食品健康影響評価の結果をリスク管理機関に通知

農薬 (3品目)	トリフルスルフロンメチル、ピラクロストロビン、ボスカリド
かび毒 (1案件)	総アフラトキシン (アフラトキシンB1, B2, G1及びG2)

(4) 食品安全委員会において既に食品健康影響評価を実施した農薬の適用拡大等、並びに動物用医薬品の再審査及び対象動物の追加等に係る取扱いについて

- 原案のとおり、決定された。また、現在、適用拡大のために評価依頼が行われている農薬であって、農薬専門調査会で未審議の5品目については、本取り決めに基づき、廣瀬委員及び長尾委員を中心に、新たに追加されたデータを確認し、安全性が懸念される科学的知見があるかを検討することとなった

- (5) 食品安全委員会が自ら食品健康影響評価を行う案件について
 - ・ 「オクラトキシンA」、「デオキシニバレノール及びニバレノール」並びに「食品中のヒ素」の3案件が自ら評価案件として決定された
- (6) 食品安全モニターからの報告（平成21年1月分）について、1月中に報告された47件について事務局から報告

第279回 3月26日（木）

- (1) 食品健康影響評価の要請
 - ・ 以下の案件についてリスク管理機関から説明

農薬（6品目）	ピリダリル、ピリプロキシフェン、メトコナゾール、トリフルラリン、パラチオンメチル、フェナミホス
動物用医薬品（3品目）	アザペロン、テルデカマイシン、フルベンダゾール
農薬及び動物用医薬品（1品目）	ジクロロボス及びナレド
飼料添加物（1品目）	DESTマイシンA

- (2) 各専門調査会における審議状況についての報告
 - ・ 各専門調査会から報告された以下の案件について国民からの意見・情報の募集に着手することを決定

農薬専門調査会（2案件）	ミクロブタニル、「コリンエステラーゼ阻害作用を有する農薬の安全性評価のあり方について」
新開発食品専門調査会（1品目）	グルコバスター カプセル

- (3) 食品健康影響評価
 - ・ 以下の案件について検討し、食品健康影響評価の結果をリスク管理機関に通知

農薬（3品目）	プリミスルフロンメチル、メソトリオン、レピメクチン
---------	---------------------------

- (4) 食品安全委員会の改善に向けた検討について事務局から説明
 - ・ 原案のとおり、「食品安全委員会の改善に向けて」が決定
- (5) 平成21年度食品安全委員会運営計画について事務局から説明
 - ・ 原案のとおり、「平成21年度食品安全委員会運営計画」が決定

- (6) 企画専門調査会に当面調査審議を求める事項について事務局から説明
 - ・ 原案のとおり、企画専門調査会に対し調査審議を求めることとなった
- (7) 平成 21 年度食品安全モニターの依頼について事務局から説明
- (8) 「食の安全ダイヤル」に寄せられた質問等（平成 21 年 2 月分）について事務局から報告

2. 専門調査会の運営

(1) 緊急時対応専門調査会

第 28 回 3 月 24 日（火）

- ・ 平成 20 年度食品安全委員会緊急時対応訓練結果について、効果的な広報技術の習得を重点課題とした実動訓練を中心に、訓練の結果、課題及び今後の対応について審議。今後、委員会に平成 20 年度緊急時対応訓練の結果報告を行なうとともに、平成 21 年度緊急時対応訓練計画（案）を提案することとされた。
- ・ 「緊急時対応のための情報の収集、分析及び情報提供のあり方に関する検討」取りまとめ案について、実施したヒアリング結果の整理について審議
- ・ 「緊急事態等における食品安全委員会の情報提供のあり方について（中間案）」について、前回提示した（案）からの変更点を事務局から説明後、審議
- ・ 平成 21 年度緊急時対応専門調査会の進め方について、原案のとおり了承

(2) 添加物専門調査会

第 68 回 3 月 23 日（月）（第 57 回新開発食品・第 68 回添加物合同専門調査会）

※ 第 57 回新開発専門調査会と合同で開催

- ・ 専門委員の互選により、福島昭治専門委員を座長に選出
- ・ 高濃度にジアシルグリセロールを含む食品の安全性について審議の結果、新開発食品・添加物専門調査会合同ワーキンググループにおける評価書案について、一部修正の上、本合同専門調査会の審議結果として食品安全委員会に報告することとされた

第 69 回 3 月 23 日（月）

- ・ 「フルジオキシニル」について調査審議し、評価書案を農薬専門調査会とともに食品安全委員会に報告することを決定
- ・ 「6-メチルキノリン」について調査審議し、評価書案を食品安全委員会に報告することを決定
- ・ 添加物の安全性評価指針の作成について、前回の検討事項の確認のほか、抗原性試験、免疫毒性試験、酵素の評価方法のうち抗原性の考察、繁殖試験、催奇形性試験及び体内動態試験について検討を行い、次回以降、引き続き審議することとされた

(3) 農薬専門調査会

第20回 確認評価第二部会 3月2日(月)

- ・ 「アゾシクロチン」について調査審議し、評価書案を一部修正の上、幹事会に報告することを決定
- ・ また、後日審議予定のシヘキサチン（アゾシクロチンの代謝物）の審議の際に、アゾシクロチンの評価書（案）を活用することとされた

第21回 確認評価第二部会 3月2日(月) ※非公開

- ・ 「エトフェンプロックス」について調査審議し、それぞれ評価書案を一部修正の上、幹事会に報告することを決定

第23回 確認評価第一部会 3月11日(水) ※非公開

- ・ ①「ピロキロン」及び②「メトミノストロビン」について調査審議し、①については継続審議、②については評価書案を一部修正の上、幹事会に報告することを決定

第29回 総合評価第二部会 3月13日(金) ※非公開

- ・ ①「1-メチルシクロプロペン」及び②「アバメクチン」について調査審議し、①については評価書案を一部修正の上、幹事会に報告することとなり、②については継続審議となった

第30回 総合評価第一部会 3月24日(火)

- ・ 「塩酸ホルメタネート」について調査審議し、評価書案を一部修正の上、幹事会に報告することを決定

第31回 総合評価第一部会 3月24日(火) ※非公開

- ・ 「フェンチオン」について調査審議し、評価書案を一部修正の上、幹事会に報告することを決定

(4) 動物用医薬品専門調査会

第10回 確認評価部会 3月17日(火)

- ・ ①「ピペラジン」及び②「ケトプロフェン」について調査審議し、それぞれ評価書案を一部修正の上、動物用医薬品専門調査会に報告することとなった

第108回 3月17日(火) ※非公開

- ・ 「モネパンテル」について調査審議し、継続審議となった

(5) 化学物質・汚染物質専門調査会

第3回 清涼飲料水部会 3月13日(金)

- ・ ①「クロロホルム」、②「ブロモジクロロメタン」、③「ジブロモクロロメタン」及び④「ブロモホルム」について調査審議し、③についてはそのまま、それ以外については評価書案を一部修正の上、幹事会に報告することを決定

- ・ 「総トリハロメタン」について調査審議し、TDIは設定できないとし、評価書案を一部修正の上、幹事会に報告することを決定
- ・ 「ベンチマークドースアプローチを用いた評価について」は、清涼飲料水部会決定（案）として、次回幹事会において、個別評価案件とともに審議することとされた

（6）微生物・ウイルス専門調査会

第8回 ワーキンググループ 3月6日（金）

- ・ 前回の審議を踏まえた追加修正事項について確認の後、まとめ及び今後の課題について議論が行われた
- ・ 審議の結果、評価書（案）を一部修正の上、微生物・ウイルス専門調査会に報告することとなった

（7）遺伝子組換え食品等専門調査会

第69回 3月10日（火） ※非公開

- ・ ①「チョウ目害虫抵抗性トウモロコシMIR162系統(食品・飼料)」及び②「除草剤グリホサート及びアセト乳酸合成酵素阻害剤耐性トウモロコシDP-098140-6（食品・飼料）」について調査審議し、それぞれ継続審議となった

（8）新開発食品専門調査会

第56回 3月6日（金） ※非公開

- ・ 「グルコバスター カプセル」について調査審議し、評価書案を一部修正の上、食品安全委員会に報告することとなった

第57回 3月23日（月）（第57回新開発食品・第68回添加物合同専門調査会）

※ 第68回添加物専門調査会と合同で開催

- ・ （2）の第68回添加物専門調査会と同様

（9）肥料・飼料等専門調査会

第31回 3月18日（水）

- ・ 「オラキンドックス」について調査審議し、「現時点で評価した知見からみる限り、オラキンドックスについては、遺伝毒性を有しているものと考えられるほか、発がん性及び催奇形性を有する可能性も否定できないことから、オラキンドックスにADIを設定することは適当ではないと考えられる。」とすることが了承され、引き続き動物用医薬品専門調査会で審議することとなった
- ・ 農薬／動物用医薬品／飼料添加物の安全性評価基準（仮称）について、検討を開始すること等が報告された

3. 意見交換会等の開催

（1）意見交換会

「食品に関するリスクコミュニケーション—もっと知りたい食品添加物—」

3月13日（金）＜岡山県岡山市＞

- ・ 食品の安全性に関する理解を深めていただくために、厚生労働省及び岡山県との共催で意見交換会を実施
- ・ 食品安全委員会及び厚生労働省から食品添加物のリスク評価やその管理について解説後、参加者がグループに分かれ食品添加物について意見交換を実施
- ・ また、グループワークの際には、平成20年11月11日に岡山で開催した「食品の安全性に関するリスクコミュニケーター育成講座」の受講者に、各グループの世話役として参加していただき、育成講座で学んでいたファシリテーションを実践していただいた

「食品に関するリスクコミュニケーション—体細胞クローン家畜由来食品のリスク評価について—」

3月24日（火）＜東京都新宿区＞

3月27日（金）＜大阪府大阪市＞

- ・ 早川 堯夫氏（食品安全委員会新開発食品専門調査会ワーキンググループ座長、近畿大学薬学総合研究所所長）から、体細胞クローン家畜に由来する食品のリスク評価（案）について、家畜の繁殖技術やクローン牛・豚の現状を交えて、リスク評価の考え方とその結果等について説明があった後、塩田 邦郎氏（食品安全委員会新開発食品専門調査会ワーキンググループ専門参考人、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）から、体細胞クローン技術のポイントでもある“全能性の獲得”について説明
- ・ その後会場参加者との意見交換を実施

（2）食品の安全性に関するリスクコミュニケーター（ファシリテーター）育成講座

3月6日（金）＜兵庫県神戸市＞

- ・ 食品安全委員会と兵庫県の共催で開催し、午前にリスク分析と食品安全委員会の役割について説明したDVD上映と、ファシリテーションの基礎知識に関する講義の後、ファシリテーションの基本的なスキルのいくつか（傾聴など）について実習を開催
- ・ 午後は参加者がグループに分かれ、アイスブレイクをした後、ワークショップのいくつかの手法を体験

（3）サイエンスカフェ 第2話

3月4日（水）＜東京都中央区＞

- ・ スピーカーから、スライドを使って、30分程度の話提供の後、参加者から、疑問や意見を自由に「コミュニケーションカード」に書いて出してもらい、その内容について、意見交換を実施

（4）体細胞クローン家畜由来食品のリスク評価案に関する懇談会

「体細胞クローン家畜由来食品のリスク評価案に関する消費者団体との懇談会」

「体細胞クローン家畜由来食品のリスク評価案に関する報道関係者との懇談会」

3月9日（月）＜中会議室＞

- ・ 早川 堯夫氏（食品安全委員会新開発食品専門調査会ワーキンググループ座長、近畿大学薬学総合研究所所長）から、体細胞クローン家畜に由来する食品のリス

ク評価（案）について、家畜の繁殖技術やクローン牛・豚の現状を交えて、リスク評価の考え方とその結果等について説明があった後、塩田 邦郎氏（食品安全委員会新開発食品専門調査会ワーキンググループ専門参考人、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）から、体細胞クローン技術のポイントでもある“全能性の獲得”について説明

- ・ その後懇談会出席者との意見交換を実施

4. その他

なし

以 上